

【(2) 教室環境】

③「学級全体の机の配置を工夫している」

《つまづきの背景》

Ｌ セルフモニタリングの困難さ、Ｑ 状況理解の困難さ

《解説》

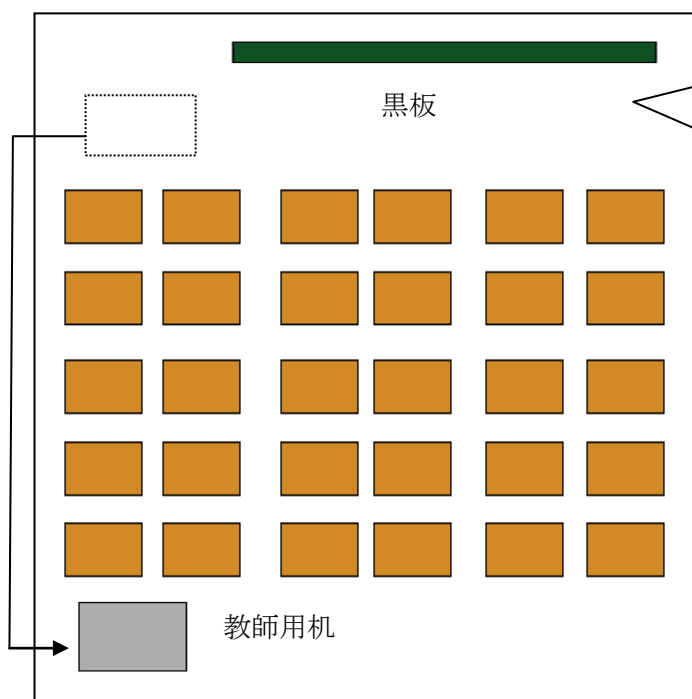
学級の実態や活動内容に合わせて、子どもや教師用の机の配置を工夫することで、グループ活動や表現活動がしやすくなったり、黒板が見えやすくなったりします。

学級の中には、教師の机の上に置いてあるものが気になるなど、刺激の影響を受けやすい子どもがいる場合があります。教師の机を後ろに置くなど、机の配置を工夫することで、刺激が減り、授業に集中しやすくなります。

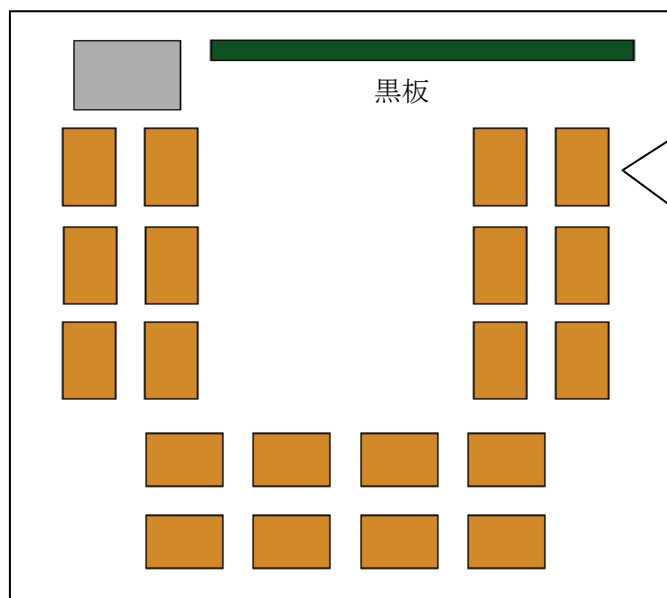
学級の実態に合わせて机の配置を工夫すると、学習に集中しやすくなったり、学習活動がしやすくなったりします。

【工夫点】

- ・ 教師用の机を教室の後ろに置く。(小中)
- ・ 机の配置をコの字型にする。(小中)



教師用の机を後ろに置くことで、黒板が見やすくなります。また、教室の前のスペースが確保できるので、グループでの発表や表現活動が行いやすくなります。



話し合い活動をするときなどに、机の配置をコの字型にすることは、友達を意識しながら活動することにつながります。しかし、刺激の影響を受けやすい子どもの場合は、友達の言動が気になり集中できにくくなることもあるので、学級の実態や活動内容によって使い分けることが大切です。